

「イノベーションを起こす組織作り」とは、  
具体的に何をすればよいのか？

イノベーションの定義  
(ISO56000準拠)

ISO56000シリーズとは何か

日本の動向

イノベーションの基本的な考え

ISO56001の基本体系

最初にやること

サービスのご紹介

## イノベーションの定義（ISO56000準拠）

### イノベーションの定義（ISO 56000準拠）

イノベーション（Innovation）とは、  
「価値を創出する**新規または改良**された製品、サービス、プロセス、モデル、  
方法などの実現（realization of new or changed entities）」

### ポイントの解説

#### 新規または改良された（new or changed）

完全に新しいものだけでなく、既存のもの改善（カイゼン）も含まれます。

#### 実現（realization）

単なるアイデアやコンセプトではなく、「価値を生むかたち」で現実適用・実装された状態を指します。

#### 価値（value）

顧客、ユーザー、組織、社会などの利害関係者にとっての価値が対象です。  
利益や効率化に限らず、社会的価値やサステナビリティも含まれます。

イノベーションの定義  
(ISO56000準拠)

ISO56000シリーズとは何か

日本の動向

イノベーションの基本的な考え

ISO56001の基本体系

最初にやること

サービスのご紹介

# ISO56000シリーズについて

ISO56000シリーズ  
について

2013年に設立された57ヶ国以上が参加するISO/TC279というイノベーションマネジメントシステム（Innovation Management System, IMS）のISO技術委員会より、2019年7月にイノベーションの国際標準規格として策定されたものがISO56002（イノベーション・マネジメントシステム）です。

ISO56000シリーズ  
とは

イノベーションの取り組みを、体系的かつ効果的に進めるための国際標準群で、企業・団体・公共機関などがイノベーションを組織的に推進するための「共通言語」と「運用の型」を定めたシリーズです。

なぜ必要なのか？

マネジメント規格

2024年9月10日発行

ISO 規格番号	日本語タイトル	主な内容
ISO 56001	イノベーションマネジメントシステム — 要求事項	イノベーションマネジメントシステムの要求事項を規定。

何ができるようになるのか？

2019年7月発行  
2023年：JIS規格化  
JIS Q 56002:2023イノベーション・マネジメントシステム

誰のためのものか？

基本規格

ISO 規格番号	日本語タイトル	主な内容
ISO 56000	イノベーションマネジメント — 基礎と用語	イノベーションマネジメントに関する基本概念と用語の定義。
ISO 56002	イノベーションマネジメント — イノベーションマネジメントシステム — ガイダンス	イノベーションマネジメントシステムの実装ガイドライン。

個別規格

ISO 規格番号	日本語タイトル	主な内容
ISO 56003	イノベーションマネジメント — イノベーションパートナーシップのためのツールと方法	イノベーションパートナーシップを形成するための方法論。
ISO 56004	イノベーションマネジメント評価 — ガイダンス	イノベーションマネジメントの評価方法に関するガイド。
ISO 56005	イノベーションマネジメント — 知的財産管理のためのツールと方法	イノベーションにおける知的財産管理のガイドライン。
ISO 56006	イノベーションマネジメント — 戦略的インテリジェンス管理 — ガイダンス	戦略的インテリジェンスの管理方法に関する指針。
ISO 56007	イノベーションマネジメント — アイデアマネジメント	アイデア管理のためのプロセスとツール。
ISO 56008	イノベーションマネジメント — イノベーション運用測定のためのツールと方法	イノベーション活動の測定および評価のためのツールと方法。
ISO 56010	イノベーションマネジメント — ISO 56000の実例集	ISO 56000シリーズの概念を説明するため、さまざまな業界の具体例を提供。イノベーション管理システムを理解しやすくするための事例や図解が含まれています。

## なぜ必要なのか？

ISO56000シリーズ  
について

ISO56000シリーズ  
とは

なぜ必要なのか？

何ができるように  
なるのか？

誰のためのものか？

**イノベーションを“偶然”ではなく“意図的に”起こすため**

**価値を継続的に生み出し、競争力を保つため**

**組織全体を巻き込む文化と仕組みをつくるため**

**不確実性とリスクを“管理しながら”挑戦するため**

**外部からの信頼を得るため（パートナー・投資家・顧客など）**

# なぜ必要なのか？

ISO56000シリーズ  
について

ISO56000シリーズ  
とは

なぜ必要なのか？

何ができるように  
なるのか？

誰のためのものか？

## 管理できないと感じる理由

イノベーションは偶然の産物であり、  
管理できない

管理＝ルールで縛ること

制度を作っても現場は動かない

成功したイノベーションは  
再現できない

## 実際の考え方

発想は偶然でも、それを拾い、形にし、評価  
するプロセスは設計できる（＝管理できる）

「自由に考えられる環境」や「挑戦を評価す  
る文化」を仕組みで支える

トップのコミットメント＋現場の巻き込み＋評  
価と改善のサイクルが前提

単発の成功は偶然でも、「成功が生まれやす  
い流れ」は再現可能

# なぜ必要なのか？

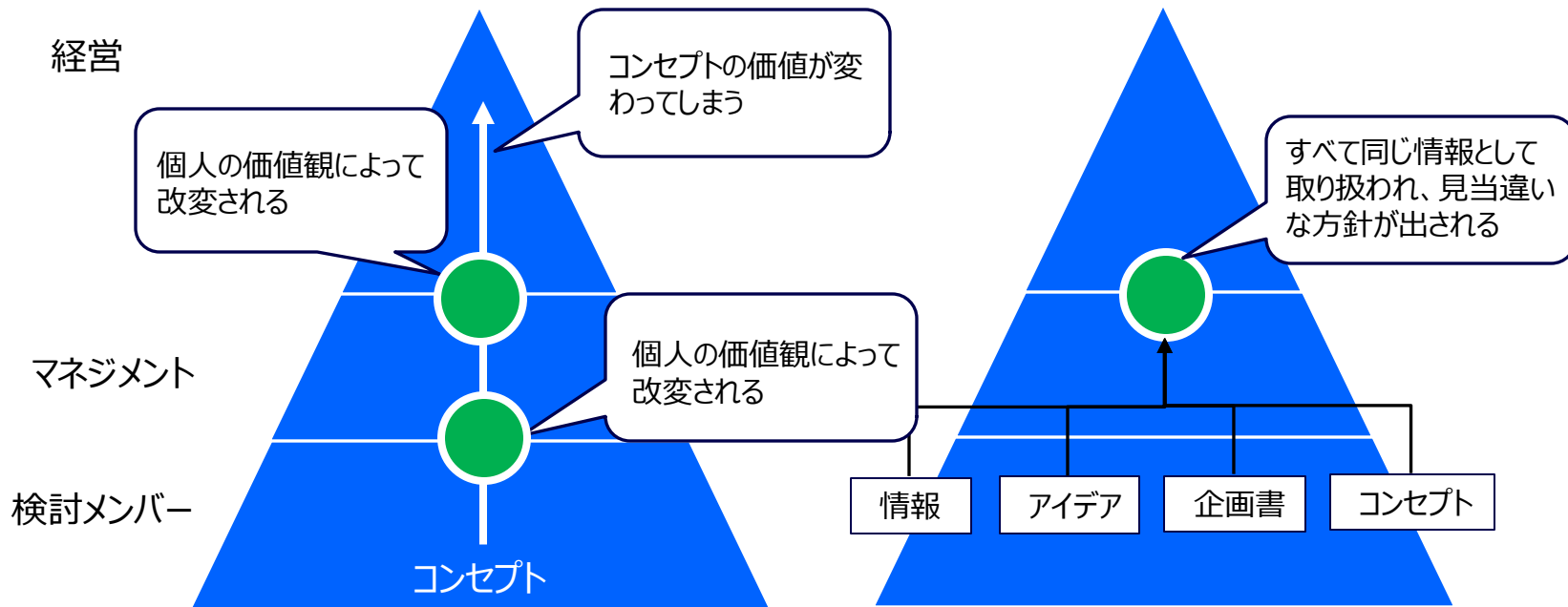
ISO56000シリーズ  
について

ISO56000シリーズ  
とは

なぜ必要なのか？

何ができるようになるのか？

誰のためのものか？



それ以外にも、情報元が特定領域や外部情報のみという偏った情報で機会を特定してしまうというケースがある。

# なぜ必要なのか？

ISO56000シリーズ  
について

ISO56000シリーズ  
とは

なぜ必要なのか？

何ができるように  
なるのか？

誰のためのものか？

経営

コンセプトの価値が  
変わってしまう

マネ

検討

**イノベーションの仕組みが必要になっている**

で、そのための情報提供が不足している。また、そのための仕組みが不足している。また、そのための仕組みがある。

## 何ができるようになるのか？

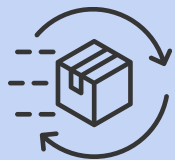
ISO56000シリーズ  
について

ISO56000シリーズ  
とは

なぜ必要なのか？

何ができるようになるのか？

誰のためのものか？



新しい製品やサービス、仕組みを、すばやくカタチにできるようになる



予測困難なビジネス環境下において、レジリエンス（回復力）と変化への適応ができるようになる



投資家・株主、取引先、政府の支援を受けやすくなる  
(投資家や上層部からの信頼UP)



人的力量と組織機能が向上し、成長を感じることができ離職率の低下と雇用の確保がしやすくなる

## 継続的な成長ができる

# 誰のためのものか？

ISO56000シリーズ  
について

ISO56000シリーズ  
とは

なぜ必要なのか？

何ができるように  
なるのか？

誰のためのものか？

対象	説明
企業・組織・団体 (すべての規模・業種)	製造業、IT、サービス業、公的機関など、どんな業界でも導入可能。とくに新規事業開発や改善活動を進めたい企業。
経営者・役員クラス	イノベーションを戦略的に進めたいリーダー層。特に「何から手をつけていいかわからない」と悩む方に◎
新規事業開発部門・R&D部門	実際にアイデアを形にする現場チーム。プロセスや評価方法が体系化されて進めやすくなります。
中小企業の経営者・管理者	限られたリソースでも、効果的にイノベーションを進めたい方にとって頼りになるフレームワークです。経営や事業の継承問題も解決できます。
自治体・行政機関・大学などの公的機関	地域イノベーションや産学官連携、社会課題の解決を目指す活動にも応用できます。
投資家・ファンド・政策立案者	投資先や支援対象のイノベーション能力を見極める判断材料として活用されます。
パートナー企業やサプライヤーを選定する企業	協業先のイノベーション力を評価する際の共通言語・指標としても利用できます。ビジネスマッチングやオープン・イノベーションを支援する企業にも最適です。

イノベーションの定義  
(ISO56000準拠)

ISO56000シリーズとは何か

日本の動向

イノベーションの基本的な考え

ISO56001の基本体系

最初にやること

サービスのご紹介

# 市場の動向

## 日本政府の動向

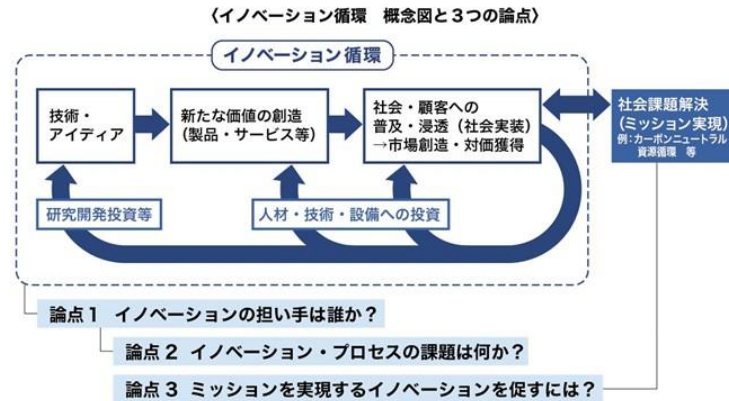
2011年10月に経済産業省が発足した「フロンティア人材研究会」から始まり、2015年には「イノベーション・マネジメントシステム100委員会」が設立された。

2018年には「省庁横断的プロジェクト「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」を発表。

その後も政策発表が行われ、2020年以降

- ・ イノベーション創出に向けた経済産業省の取組
- ・ イノベーションを生み出す企業経営と市場創出について
- ・ イノベーション循環の実現に向けた政策の方向性
- ・ イノベーション創出のための学びと社会連携推進に関する研究会 報告書-共助により**価値創造人材の育成**を支える環境の構築に向けて  
などが発表されている。

政府発表の「企業と投資家の対話のための「価値協創ガイダンス 2.0 - サステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）実現のための価値創造ストーリーの協創」も公開され、多くの上場企業が「価値協創ガイダンス2.0」を参考に投資家向けのレポートを公開している。



経済産業省イノベーション循環”が新たな価値を生み、持続可能な産業を創る  
<https://www.meti.go.jp/press/2023/06/20230602007/20230602007.html>



[https://www.meti.go.jp/policy/economy/keiei\\_innovation/kigyoukaikai/ESGuidance.html](https://www.meti.go.jp/policy/economy/keiei_innovation/kigyoukaikai/ESGuidance.html)

市場動向

日本政府の動向

日本市場の動向

# 市場の動向

## 日本市場の動向

日本のイノベーション・マネジメント市場は、特に近年、デジタルトランスフォーメーションや持続可能性への関心の高まりに伴い、急速に成長しています。

- **ISO 56001の導入と普及**

経済産業省が推進するISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）は企業が体系的にイノベーションを推進するためのフレームワークとして注目を集めています。

- **オープンイノベーションの推進**

日本の大手企業は、スタートアップや研究機関との連携を通じて、オープンイノベーションを積極的に推進しています。三菱、日立、トヨタなどの企業が主導するオープンイノベーションプログラムやアクセラレーションプログラムが増加しています。

- **デジタルトランスフォーメーション（DX）とイノベーションの融合**

DXは日本企業にとって不可欠な課題となっており、デジタル技術を活用したイノベーション活動が加速しています。AI、IoT、ブロックチェーンなどの先端技術を活用した製品・サービス開発が進んでおり、成果を出すにはイノベーションは不可欠な要素となっています。

- **スタートアップ支援とベンチャー投資の増加**

経済産業省の「J-Startup」プログラムなど、日本では政府や大企業によるベンチャー投資が活発化しています。スタートアップと大企業が協業し、リスク分散とイノベーション促進を目指す動きが加速しています。

- **サステナビリティとイノベーション**

SDGs（持続可能な開発目標）への関心が高まる中で、企業は環境に配慮したイノベーション活動を推進しています。

- **人材育成とイノベーション文化の醸成**

イノベーションを持続的に生み出すための人材育成が課題となっており、リーダーシップ開発やアジャイルな働き方を支援する研修プログラムが注目されています。特に若手社員やミドルマネジメント層の育成が、イノベーション推進において重要視されています。

## 結論（まとめ）

達成すべき目的は、ビジネス環境の変化を察知、および予測し、価値ある製品・サービスをいち早くリリースすることが求められている。そのためには、イノベーション・マネジメントシステムとイノベーション管理ツールが必要となっている。

単純にイノベーション・マネジメントシステムを実践することを目的とするならExcelなど非専門ツールでも実践できるが、本来の目的を達成する場合、専門ツールの利用は不可欠な要素である。

デジタルトランスフォーメーション（DX）の最後のピースを埋めて、DXの目的を達成するには、イノベーションの仕組みは不可欠な要素となっている。

## 市場動向

### 日本政府の動向

### 日本市場の動向

イノベーションの定義  
(ISO56000準拠)

ISO56000シリーズとは何か

日本の動向

イノベーションの基本的な考え

ISO56001の基本体系

最初にやること

サービスのご紹介

# イノベーションの基本的な考え方

イノベーションの基本的な考え

アイデア募集（機会）からビジネス企画（価値）までのイノベーション活動プロセスを管理

基本的な考え方

..... The Construction of Receivers

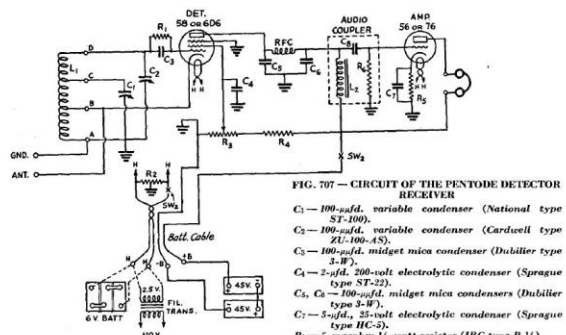
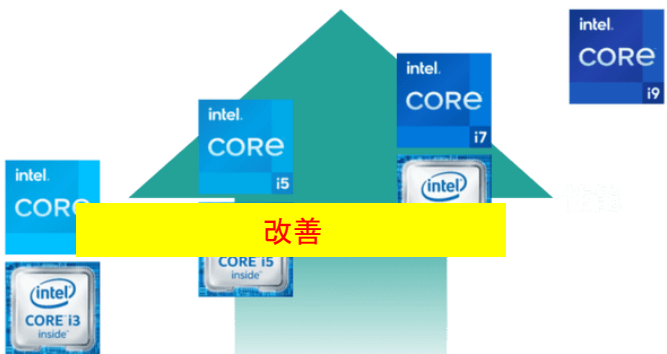


FIG. 707 — CIRCUIT OF THE PENTODE DETECTOR RECEIVER  
 C<sub>1</sub> — 100- $\mu$ fd. variable condenser (National type SF-100).  
 C<sub>2</sub> — 100- $\mu$ fd. variable condenser (Cardwell type 2L-100-4S).  
 C<sub>3</sub> — 100- $\mu$ fd. midjet mica condenser (Dubilier type 3-W).  
 C<sub>4</sub> — 2- $\mu$ fd. 200-volt electrolytic condenser (Sprague type ST-22).  
 C<sub>5</sub>, C<sub>6</sub> — 100- $\mu$ fd. midjet mica condensers (Dubilier type 3-W).  
 C<sub>7</sub> — 5- $\mu$ fd. 25-volt electrolytic condenser (Sprague type HC-3).  
 R<sub>1</sub> — 5-megohm  $\frac{1}{2}$ -watt resistor (IRC type B-3 $\frac{1}{2}$ ).  
 R<sub>2</sub> — 2000-ohm 1-watt resistor (IRC type B-1).  
 SW<sub>1</sub>, SW<sub>2</sub> — Single-pole single-throw toggle switches (S-101).  
 R<sub>3</sub> — 50,000-ohm potentiometer (Centralab type 72-103).  
 R<sub>4</sub> — 25,000-ohm 2-watt resistor (IRC type F-2).  
 R<sub>5</sub> — 2000-ohm 1-watt resistor (IRC type B-1).  
 T<sub>1</sub>, T<sub>2</sub> — Single-pole single-throw toggle switches (S-101).  
 100V

A Shielded Two-Tube Receiver  
 ● Figs. 705 to 710, inclusive, show the construction and circuit of a more sensitive type of simple regenerative receiver in which a pentode screen-grid and a triode as a tuning system spread than t



イノベーション



シリーズと世代が上のものほど高性能



# イノベーションの基本的な考え方

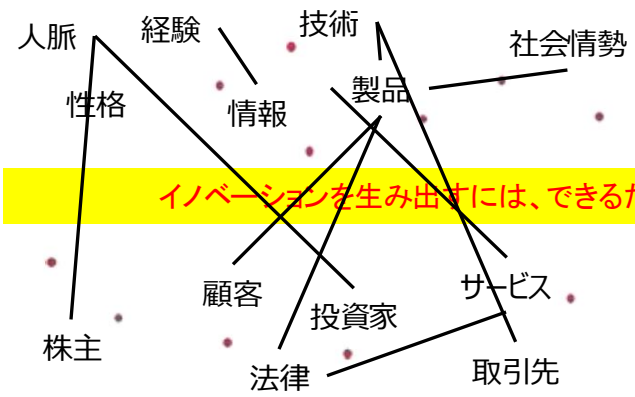
イノベーションの基本的な考え

アイデア募集（機会）からビジネス企画（価値）までのイノベーション活動プロセスを管理

イノベーションは点（因子）を結合させて新しい価値を生み出す方法論

その絵が何かを知るにはもっとたくさんのドットが必要

線を結ぶためにはさらに多くのドットが必要



イノベーションを生み出すには、できるだけ多くの情報やアイデアなどの点(ドット)が必要



複数の情報源

たくさんドットを取得

ビジネス機会マップ(BOM)上で整理



複数の点(ドット)を繋げて新しい価値をもったアイデアを創出する

	Your Company	Past and Future	Value Chain	Adjacencies
MARKETS Customers Needs Experiences	[dots]	[dots]	[dots]	[dots]
DELIVERY Locations Channels	[dots]	[dots]	[dots]	[dots]
PRODUCTION Technologies Processes Assets	[dots]	[dots]	[dots]	[dots]
BUSINESS MODEL Networks Partners Pricing Models	[dots]	[dots]	[dots]	[dots]

イノベーションの定義  
(ISO56000準拠)

ISO56000シリーズとは何か

日本の動向

イノベーションの基本的な考え

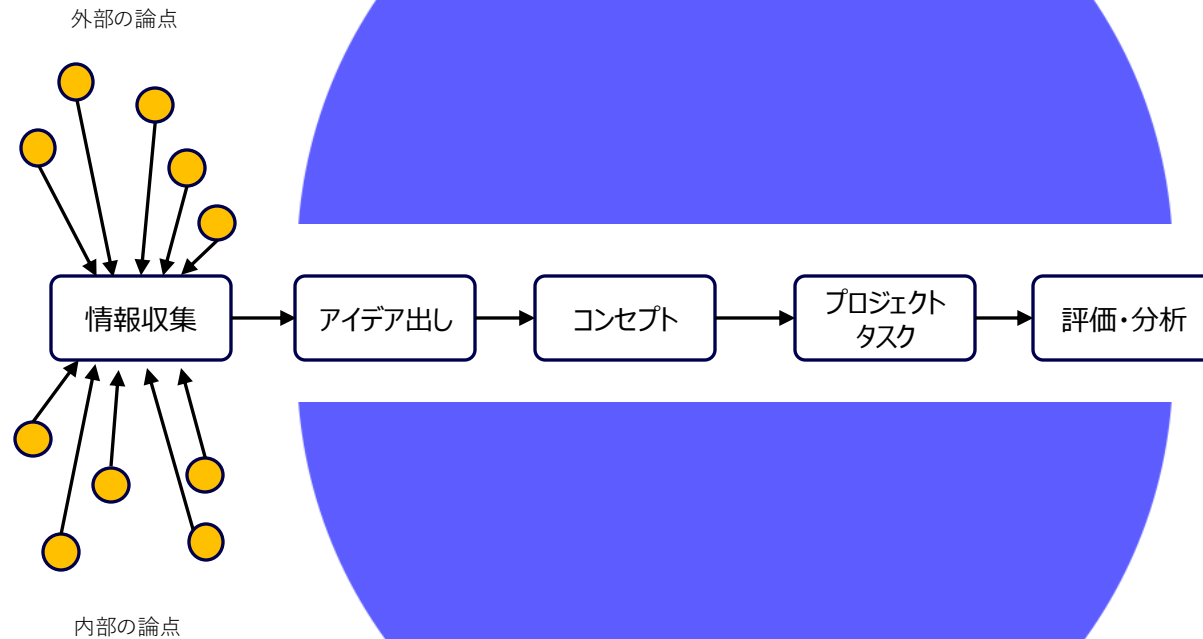
ISO56001の基本体系

最初にやること

サービスのご紹介

# ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）の基本体系

新規事業開発の経験者は、以下のような活動を行なっていると思いますが、組織の機能にするには不十分です。



# ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）の基本体系

ISO56001の基本体系

ISO56001の基本体系

IMS（イノベーション・マネジメントシステム）とは、「不確実性」を前提としながら価値を生み出すマネジメントシステムです。企業や組織が、予測困難なビジネス環境でも継続的に新しい価値を創出し続けるための仕組みを体系的なマネジメントシステムとして構築できます。

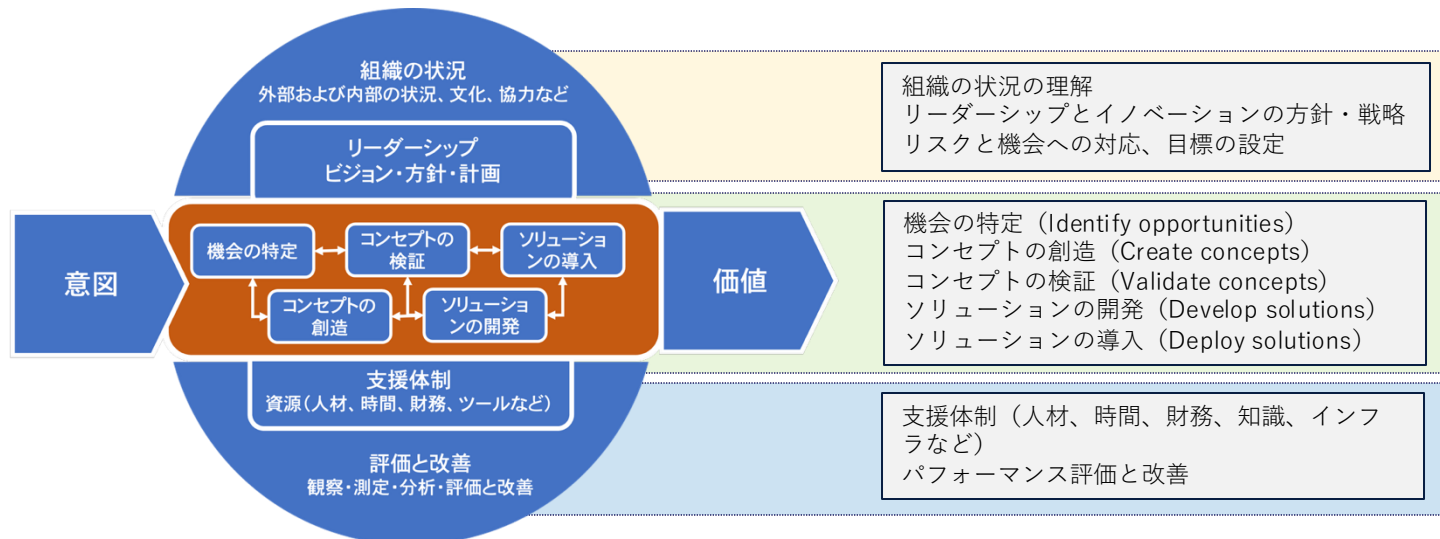
ISO 56001では、国際標準として定義されており、以下のような構成要素を持ちます。

## ■ IMS（イノベーション・マネジメントシステム）の概要

### 1. 目的と効果

- 不確実性の中でも組織が継続的にイノベーションを生み出せるようにする
- 新しい製品・サービス・プロセス・ビジネスモデルなどを通じて「価値の実現」を目指す
- イノベーション活動の成果を組織全体で最大化し、社会的な持続可能性にも貢献する

### 2. 構成要素（要求事項）

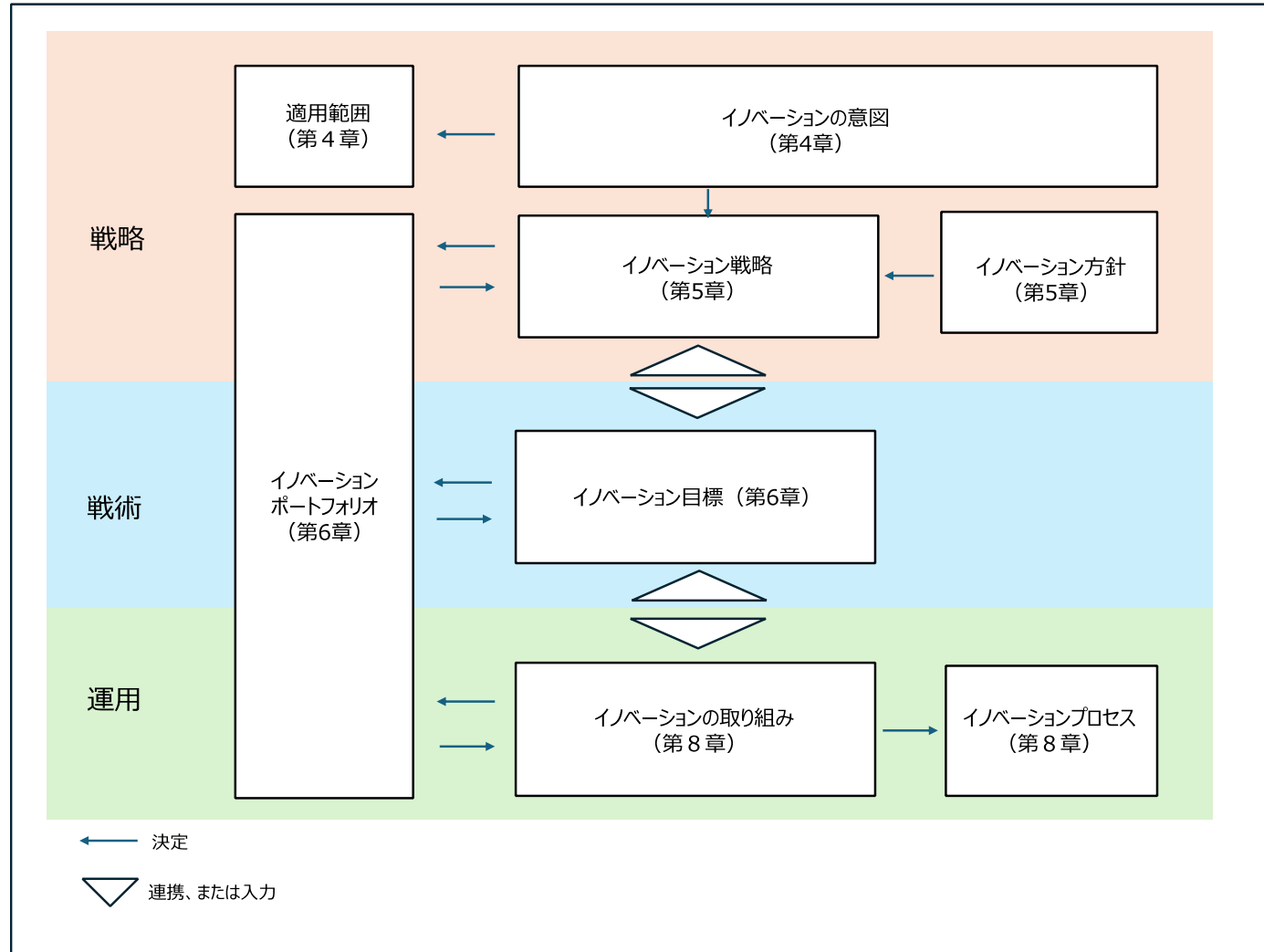


# ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）の基本体系

ISO56001の基本体系

ISO56002のガイドラインには記載がありませんでしたが、ISO56001には、下図が追加されました。

ISO56001の基本体系



イノベーションの定義  
(ISO56000準拠)

ISO56000シリーズとは何か

日本の動向

イノベーションの基本的な考え

ISO56001の基本体系

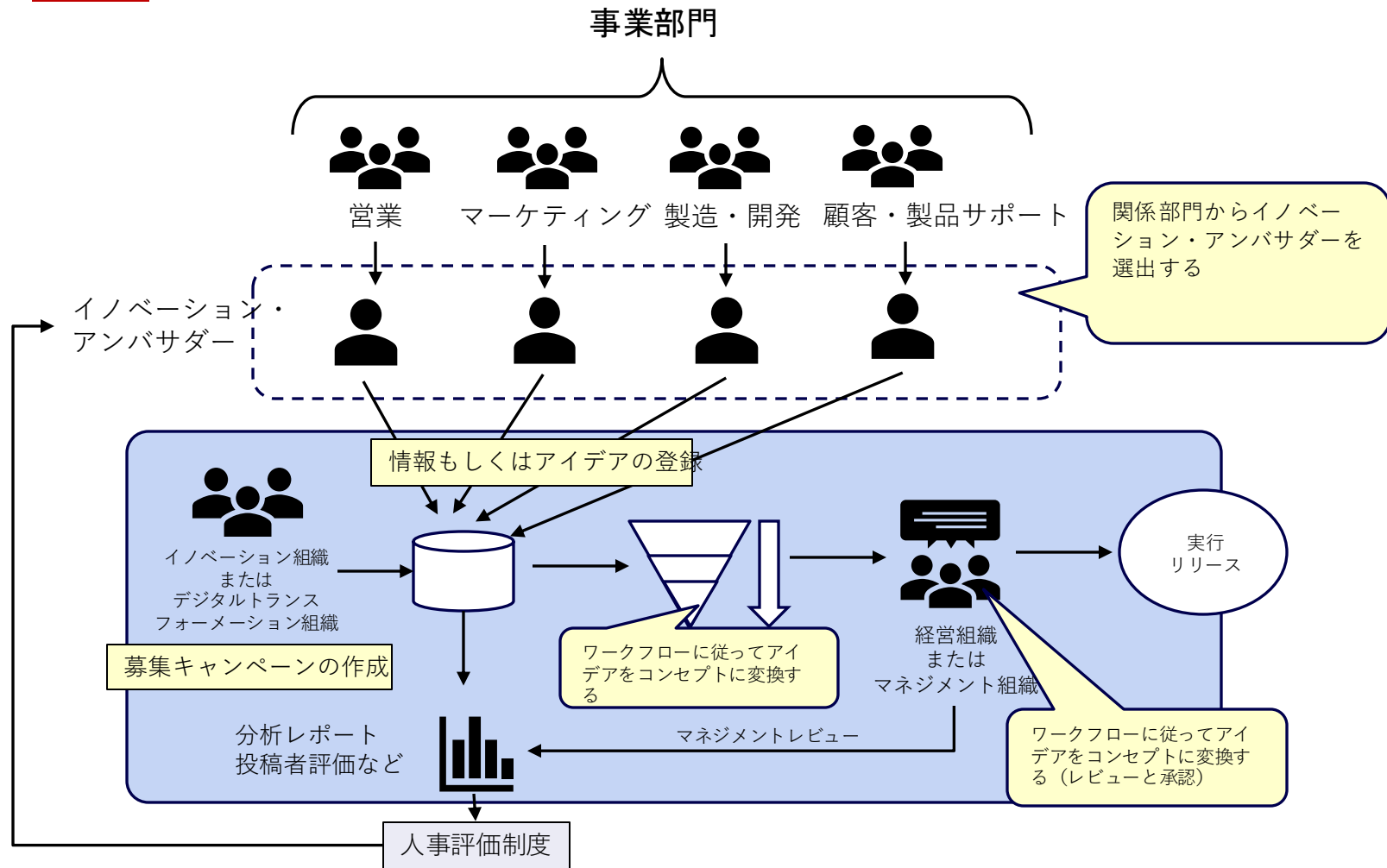
最初にやること

サービスのご紹介

# 最初にやること

## 課題

イノベーションが必要なことは理解しているが、どのように進めてよいかわからない。スタンダードな仕組みでスモールスタートから始めたい



最初にやること

全体概要図

組織の状況

リーダーシップ

管理と運用

教育・育成

# 組織の状況とは

簡単に説明すると、「**ビジネス環境を把握して、自社に事業に与える影響を把握する**」という意味です。ISO9001、ISO27001など、多くのISOには、同様の「組織の状況」が含まれていますが、ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）では、重要な要素として定義されています。

## なぜ必要なのか？

イノベーションは、会社の置かれている状況（ポジション）に応じて機会や脅威に変わる活動です。したがって、以下のようなことを理解する必要があります

- 自社の強み・弱み（内部）
- 市場や技術の変化、規制、社会動向（外部）

これらを把握することで、イノベーションの方向性が明確になり、失敗を減らすことができます。

## 情報収集すべき対象（例）

内部の論点	外部の論点
組織構造 従業員エンゲージメント 社内文化や価値観（イノベーションに対する姿勢） 人材・資源・経験/知識/スキル・人脈など 業務プロセスやツール 財務状況	技術革新の動向 顧客や市場の期待 取引先の動向 地政学的な動向 競合の動向 社会課題（例：脱炭素、少子高齢化） 政治・法規制の影響（例：特許、医療規制）

最初にやること

全体概要図

組織の状況

リーダーシップ

管理と運用

教育・育成

# 組織の状況とは（具体的な例）

<https://systemcon.co.jp/resources/articles/press/press-20240918/>



最初にやること

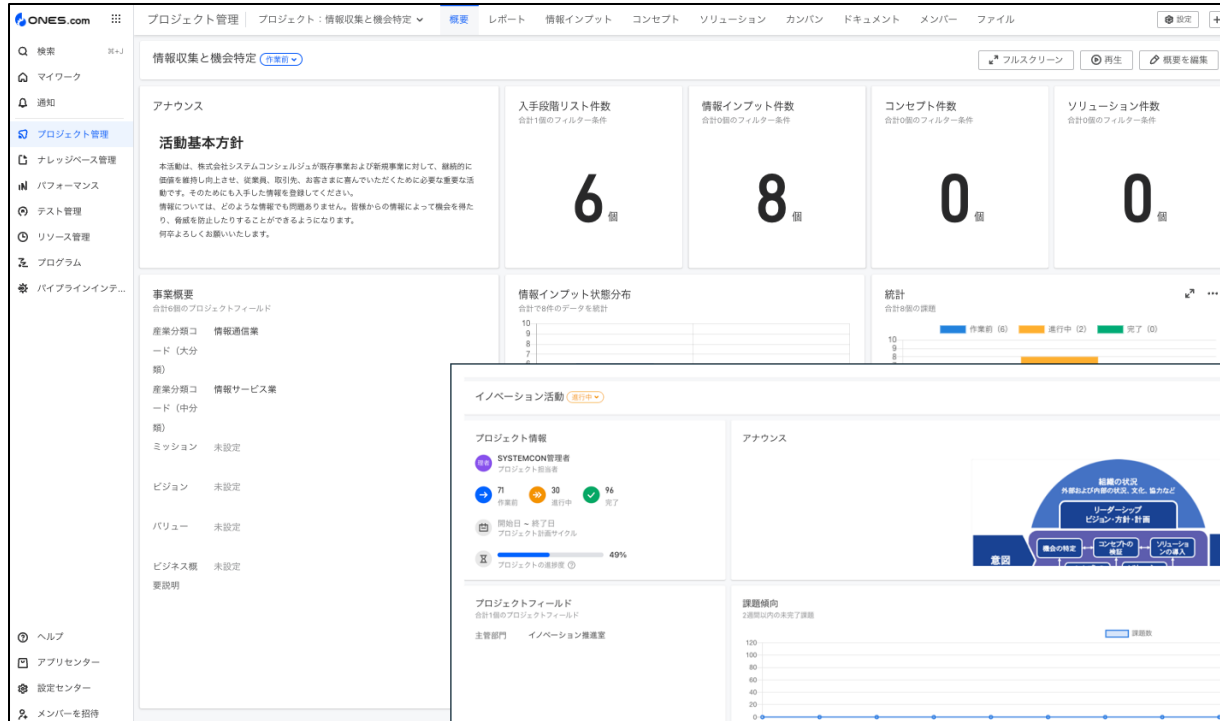
全体概要図

組織の状況

リーダーシップ

管理と運用

教育・育成



# 組織の状況とは（具体的な例）

<https://systemcon.co.jp/resources/articles/press/press-20240918/>



最初にやること

全体概要図

組織の状況

リーダーシップ

管理と運用

教育・育成

情報インプットを作成

\*タイトル

\*プロジェクト: 情報収集と機会特定

\*課題タイプ: 情報インプット

説明

優先度: 普通

情報分類 (大分類): 未設定

情報分類 (中分類): 未設定

影響分類: 未設定

影響度: 未設定

影響時期: 未設定

\*担当者: 大塚和彦

期限日: 未設定

対応判定: 未設定

情報入手元: 未設定

URL: 未設定

判定理由: 未設定

同期と進捗

予定開始日: 予定終了日

連続して作成

キャンセル 確定

## 情報インプットの例（1）

メンバーがとらえた情報を入力します。

最初は、以下を入力します。

- タイトル
- 説明
- 情報入手元
- URL (URLがある場合のみ)

この情報を元に決められたサイクルで情報判定会議を行います。  
情報判定会議では、以下を決定します。

- 情報分類 (大分類) -- 外部・内部
- 情報分類 (中分類) -- 外部 (社会・経済・法律・競合・業界など)
- 影響分類 - 機会・脅威
- 影響時期
- 影響度
- 情報判定



# リーダーシップとは

簡単に説明すると、

「経営トップがイノベーションに本気で取り組み、方針・戦略を示し、必要なリソースと文化を整えること」

という意味です。

つまり、最高責任者は権限移譲したつもりの「丸投げ」をしてはならない。  
目指す方向（ミッション、ビジョン、バリュー、意図、方針、戦略など）を明確にして、組織へ認知・浸透させる。  
リソースの提供（人材、時間、インフラ、ツールと方法、財務、時間などを確実に確保し提供すること。

ISO56001では、以下の要求事項が記載されています。

番号	項目	内容（要点）
5.1	リーダーシップとコミットメント	経営層はIMSの実行をリードし、価値創出に責任を持つこと（例：方針の浸透、資源の確保）
5.1.2	価値実現の重視	イノベーションによる実際の価値提供（成果）に焦点を当てること
5.1.3	チェンジマネジメント	組織がイノベーションによって変化していくことをポジティブに支える姿勢
5.2	イノベーションの方針	IMSにおける基本方針（方向性・価値観）を明文化・共有すること
5.3	イノベーションの戦略	意図・方針に基づき、どこで・何に・どう取り組むかを定める計画
5.4	イノベーション文化	創造性・協働・挑戦を支える組織文化の醸成（例：心理的安全性、挑戦容認）
5.5	役割・責任・権限	誰が何を担うのかを明確にして、推進力を組織に定着させること

イノベーションに対して、トップの理解と熱意、そして伝達が重要です。

最初にやること

全体概要図

組織の状況

リーダーシップ

管理と運用

教育・育成

# リーダーシップとは（具体的な例）

<https://systemcon.co.jp/resources/articles/press/press-20240918/>



最初にやること

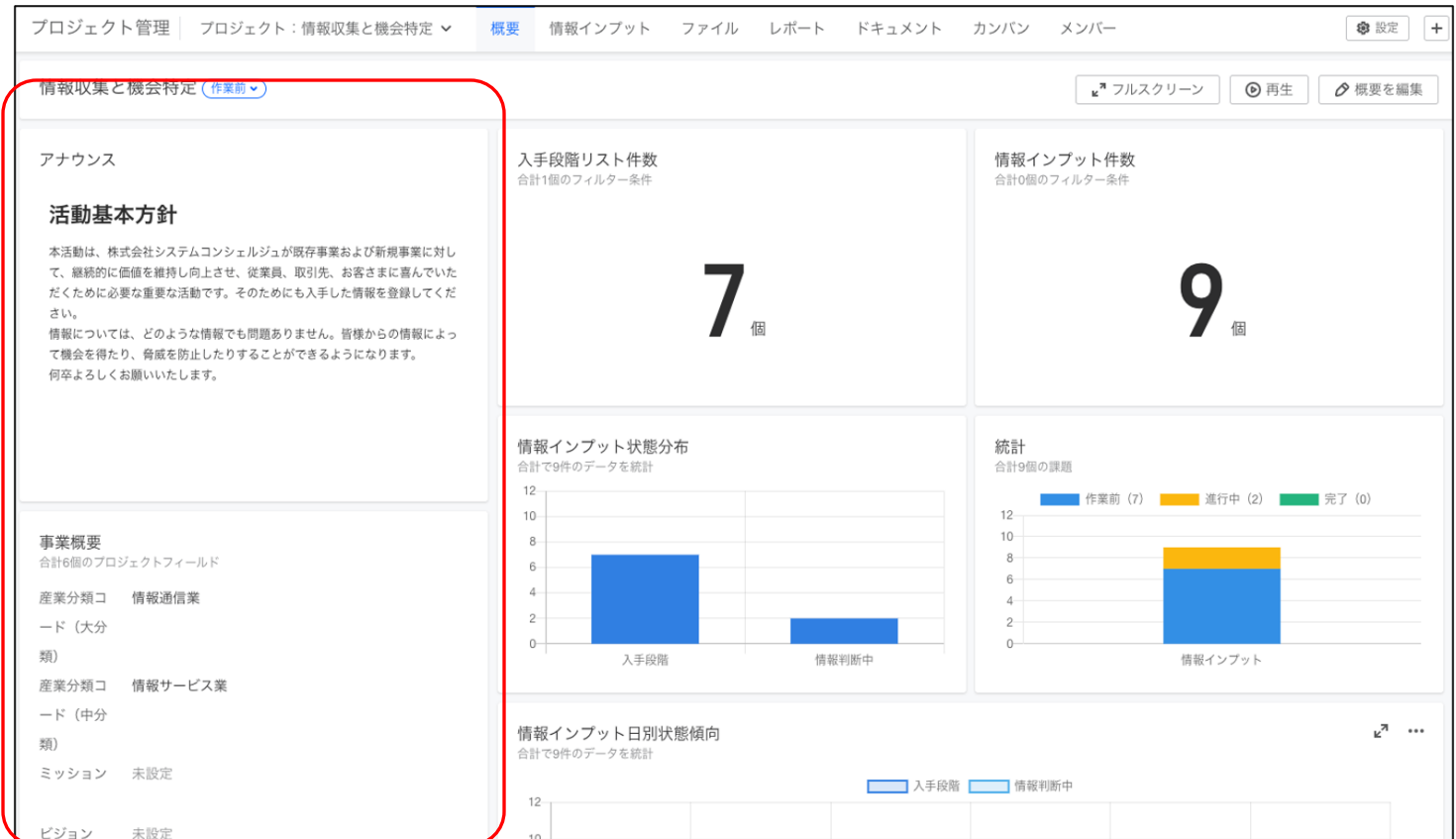
全体概要図

組織の状況

リーダーシップ

管理と運用

教育・育成



# リーダーシップとは（具体的な例）

ハンドブックを配布して認知させる

ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）認証を取得するというキッカケ作りが効果的である。

最初にやること


全体概要図

組織の状況

リーダーシップ

管理と運用

教育・育成

 System Concierge  
株式会社システムコンシェルジュ株式会社システムコンシェルジュ イノベーション活動 ハンドブック

### イノベーション活動方針

株式会社システムコンシェルジュ（以下、当組織）の基本的な活動方針は以下の3つとなります。

**Hospitality**  
私たちは心からお客さまを迎え、温かいおもてなしの気持ちでサービスを提供します。お客さまのさまざまな要求に対応し、急速に変化する状況でも快適で安心感のあるワークスタイルを提供するために、IT技術と経験を活かして努力します。私たちはお客さまを大切に、彼らに特別な体験を提供することを非常に重要視しています。

**Innovation**  
私たちが目指すのはイノベーション活動を日常的な活動にすることです。私たちは業界の常識にとらわれず、常に新しいアイデアと革新的な方法を考え、新しい価値を提供することをお約束いたします。私たちは新しいテクノロジーやトレンドなどいち早く取り入れ、お客様にとってより良い体験を提供するために努力します。

**For The Team**  
私たちは利益だけを追求するのではなく、お客様を含めたチーム全体の協力とチームワークを重要視しています。お互いを尊重し、助け合いながら働きます。私たちは分断されず、一つのチームとして連携し、お客様に最高の成果を提供するために全力を尽くします。私たちは互いの得意なことを活かし、お客様との結束を大切にします。私たちの成功はチーム全体の力によるものであり、共に成長することを目指します。

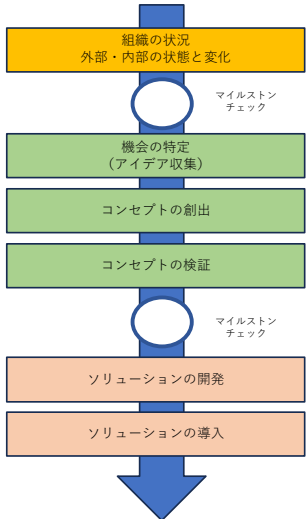
3つの基本的な活動方針に従って、お客様を含めたチーム全体へ継続的に価値を生み出し、チームへ最高の体験を提供するためにイノベーションを追求します。この方針文書は、当組織のイノベーション活動方針を説明するものです。

**イノベーション活動の目的**  
この方針は、イノベーションの重要性を全従業員に伝え、組織全体でのイノベーションの推進と実践をサポートすることを目的としています。

**5つの方針**

- 顧客中心: 顧客のニーズと期待を満たすための新しい方法を常に探求します。
- 従業員中心: 関係する従業員が価値を感じ、自らも楽しむことを追求します。
- 継続的な学習: 外部のトレンドや技術の変化を常に監視し、学習と適応の機会を追求します。
- リスクの受容: 革新的なアイデアを試すことで、失敗から学ぶ文化を育成します。
- 協力とコラボレーション: 内部のチームや外部のパートナーとの連携を促進し、共同で価値を生み出します。

### イノベーション活動プロセス



組織の状況  
外部・内部の状態と変化

マイルストーン  
チェック

機会の特定  
(アイデア収集)

コンセプトの創出

コンセプトの検証

マイルストーン  
チェック

ソリューションの開発

ソリューションの導入

### イノベーション活動体制

システムコンシェルジュ

イノベーション推進部

最高イノベーション責任者  
大塚 和彦

田中 祐士  
井上 武智  
梅川 隆

内部監査員

管理部長 経理企画課  
山内 朝雄

外部協力者

ひなた総合法律事務所  
弁護士 辻角 智之

スタジオブックマーク  
技術顧問 伊藤 正宏

## 外部・内部のインプット情報を登録してください。

継続的な成長や改善には、皆さまからの情報が重要です。

以下のサイトに情報を登録してください。  
[情報収集および取得について | ナレッジベース管理 \(ones.com\)](https://ones.com)

【関連文書】  
情報収集および取得について  
IMS1-004 | 価値提案制度規定(細則)

2023年7月1日作成  
2023年10月1日改定

## 株式会社システムコンシェルジュ内のハンドブック

# 管理と運用とは

イノベーション・マネジメントシステム（IMS）を組織機能にするためには、管理マニュアルと運用マニュアルが必要になります。つまりマネジメントシステムとして機能させるのです。

文書体系

トップポリシー																		
イノベーション・マネジメントシステム基本方針 (IMS基本方針定義書に包括)																		
IMS基準（総則）																		
IMS管理マニュアル																		
IMS基準（細則）																		
イノベーション活動マニュアル	イノベーション管理規定	情報収集に関する規定	価値提案制度規定	会議運営規定	IMS適用宣言書	IMS適用範囲定義書	教育・訓練実施規定	ハンドブック	IMS内部監査規定	マネジメントレビュー規定	文書情報管理規定	知的財産管理規程						
記録																		
IMS基準（総則）およびIMS（細則）から参照される各種記録や関連する規定・規則																		

最初にやること

全体概要図

組織の状況

リーダーシップ

管理と運用

教育・育成

# 教育・育成とは

イノベーション・マネジメントシステム（IMS）を機能させるために、力量を確保する必要があります。

## 各役割の一覧（当社の場合）

役割名称	役割概要	R（実行責任）	A（最終責任）	C（相談）	I（報告）
経営者 (Top Management)	イノベーションの方針と戦略の承認・推進		●	● (CIO, 部門長)	● (全社員)
イノベーション最高責任者 (Chief Innovation Officer: CINO)	全社的なイノベーション戦略の策定と推進責任者		●	● (CEO)	● (取締役会)
イノベーション推進責任者 (Innovation Program Manager)	プロジェクト実行計画、イノベーションの取り組みの進行管理	●	● (CINO)	● (現場, PM)	● (CINO)
イノベーション・アンバサダー (Innovation Ambassador)	イノベーション活動支援（情報収集やアイデア収集など）、および活動認知を行う	●		● (IPM)	● (指定場所へ登録)
プロジェクトマネージャー (Project Manager)	各イノベーションプロジェクトの具体的実施 ソリューションやPoCなどのプロジェクト管理	●	●	● (チーム)	● (CINO)
ナレッジ管理マネージャー (Knowledge Manager)	ONES Wikiを用いたナレッジの蓄積と活用管理	●	● (CINO)	● (全社員)	● (CINO, PM, 各部門)
データアナリスト／戦略インテリジェンス責任者	IdeaScaleなどを用いたインサイト生成・戦略情報分析	●	● (CINO)	● (経営)	● (CINO, PM, 各部門)
従業員／現場リーダー	アイデア提供、機会の特定、コンセプトの創造	●		● (PM, CINO)	● (IAまたは指定場所へ登録)
品質管理責任者（QMS連携）※予定	ISO9001と統合した場合	●	● (CINO, QMS責任者)	● (PM)	● (CEO, 監査)
セキュリティ管理責任者	ISO27001と統合した場合	●	● (CINO, ISMS責任者)	● (PM, CINO)	● (CEO, 監査)

最初にやること

全体概要図

組織の状況

リーダーシップ

管理と運用

教育・育成

# 教育・育成とは

イノベーション・マネジメントシステム（IMS）を機能させるために、力量を確保する必要があります。

## 力量の証明（当社の場合）

役割名称	役割概要	力量証明を研修
経営者 (Top Management)	イノベーションの方針と戦略の承認・推進	IMSAPスタジオ
イノベーション最高責任者 (Chief Innovation Officer:CINO)	全社的なイノベーション戦略の策定と推進責任者	IMSAPスタジオ／資格名称：Innovation Professional Global Innovation Management Institute(GIMI) ／資格名称：Innovation Catlyst 意思決定／エフェクチュエーションの基礎 プロジェクト管理／アジャイル研修
イノベーション推進責任者 (Innovation Program Manager)	プロジェクト実行計画、イノベーションの取り組みの進行管理	IMSAPスタジオ／資格名称：Innovation Professional Global Innovation Management Institute(GIMI) ／資格名称：Innovation Catlyst 意思決定／エフェクチュエーションの基礎 プロジェクト管理／プロジェクト管理の基礎
イノベーション・アンバサダー (Innovation Ambassador)	イノベーション活動支援（情報収集やアイデア収集など）、および活動認知を行う	IMSAPスタジオ／資格名称：Innovation Professional Global Innovation Management Institute(GIMI) ／資格名称：Innovation Catlyst ビジネスモデルキャンパスの基礎
プロジェクトマネージャー (Project Manager)	各イノベーションプロジェクトの具体的実施 ソリューションやPoCなどのプロジェクト管理	プロジェクト管理／プロジェクト管理の基礎 アジャイル研修／ウォーターフォール研修
ナレッジ管理マネージャー (Knowledge Manager)	ONES Wikiを用いたナレッジの蓄積と活用管理	ISO30401の基礎研修 SECIモデルの基礎研修 生成AIプロンプト研修 クリティカルシンキング
内部監査員	ISO56001およびISO56002の内部監査を行う	BSIジャパン社の内部監査員養成講座
データアナリスト／戦略インテリジェンス責任者	IdeaScaleなどを用いたインサイト生成・戦略情報分析	検討中
従業員／現場リーダー	アイデア提供、機会の特定、コンセプトの創造	Global Innovation Management Institute(GIMI) ／資格名称：Innovation Catlyst ※意思決定を行うものはエフェクチュエーション研修
品質管理責任者（QMS連携）※予定	ISO9001と統合した場合	検討中
セキュリティ管理責任者	ISO27001と統合した場合	検討中

最初にやること

全体概要図

組織の状況

リーダーシップ

管理と運用

教育・育成

イノベーションの定義  
(ISO56000準拠)

ISO56000シリーズとは何か

日本の動向

イノベーションの基本的な考え

ISO56001の基本体系

最初にやること

サービスのご紹介

# イノベーション・マネジメントシステム（IMS）支援

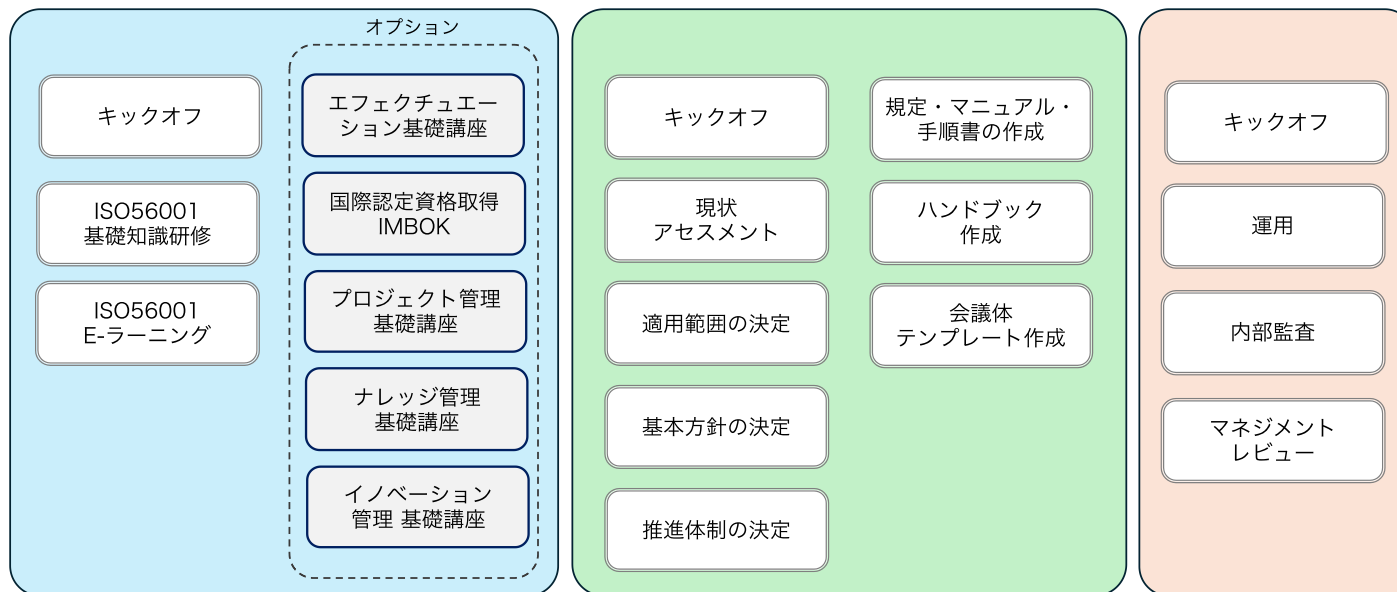
サポート概要

株式会社システムコンシェルジュでは、3つの段階に対応した支援サポートを提供しています。

スタートアップ

導入支援サービス

運用支援サービス



段階	概要
スタートアップ	IMSおよびISO56001の知識習得と理解を目的とし、イノベーションに必要な力量（知識・能力）を育成するメニューです。
導入支援サービス	IMSおよびISO56001の仕組みを組織に導入する際のサポートメニューです。
運用支援サービス	IMSおよびISO56001の仕組みを運営する際のサポートメニューです。
コーチングサービス	IMSの全般に関する「よろず相談」のサポートサービスです。

支援サポート

コーチングサービス

その他

# コーチングサービス

IMSおよびISO56001の仕組みを運営する際のサポートメニューです。



サービス項目	内容	料金 (税別)	備考
IMS支援：スターター (基本) コーチングサービス	支援回数：月2回 ※1回あたり2時間程度 WEBシステムによるQA対応 (月10件まで)	200,000円/月額	原則、オンライン対応でのコンサル支援付き オンサイト対応の場合は別途調整となります。 必要に応じて、資料・テンプレートを提供します。 最小契約単位：3ヶ月
IMS支援：スターター (追加) コーチングサービス	追加のオンライン支援 (4時間ごと) WEBシステムによるQA対応 (月5件まで)	100,000円/月額	基本契約に追加する。 基本契約期間内で、必要な月に追加可能
よろず相談サービス	WEBシステムによるQA対応 (月10件まで)	100,000円/月額	基本サービスの月10件を超過した場合、追加サービスとなります。

サポート概要

支援サポート

コーチングサービス

その他

# よろず相談サービス

WEBシステムを利用したQA対応をご提供いたします。

サポート概要

支援サポート

コーチングサービス

その他

ヘルプセンター

ヘルプセンター / イノベーション・マネジメントシステム (IMS) コンサルサポート

## イノベーション・マネジメントシステム (IMS) コンサルサポート

イノベーション・マネジメントシステム (IMS) コンサルサービスの窓口です。  
こちらを使ってイノベーション・マネジメントシステム (IMS) に関する質問・相談のリクエストを作成できます。

どのようなリクエストですか？

- 国際標準規格：ISO56001 / ISO56002に関する質問**  
国際標準規格：ISO56001 / ISO56002に関する質問を受付します。
- イノベーション・マネジメントシステム (IMS) に関する質問**  
イノベーション・マネジメントシステム (IMS) 全般について質問がある場合は、こちらから送信します。
- その他の質問や相談**  
他メニューに該当しない質問や相談はこちらから登録してください。

**関連リソース**

- 生成AIによるISO56001 / ISO56002に関するQAチャンネル**  
生成AIによるISO56001 / ISO56002に関するQAチャンネルです。

サービス項目	内容	料金 (税別)	備考
よろず相談サービス	WEBシステムによるQA対応 (月10件まで)	100,000円/月額 1,000,000円/年額	当社のサービスの契約満了後、WEBシステムによるQA対応を継続して提供いたします。 年間契約の場合、2ヶ月分をサービスさせていただきます。 ※QA対応のみご要望の場合はご相談ください

# IMS理解促進活動サービス

IMSを始めたいが、現場メンバーや経営・マネジメントがIMSに対して理解をしていない場合、当社が対象者へIMSに関する説明会を行います。



サービス項目	内容	料金（税別）	備考
経営マネジメント層向け はじめてのIMS	経営・マネジメント層向け 「はじめてのIMS」 45分～90分程度	250,000円/開催	最大対象人数 オンラインの場合：無制限 訪問の場合：30名（諸経費別）
現場メンバー向け はじめてのIMS	現場メンバー向け 「はじめてのIMS」 45分～90分程度	200,000円/開催	最大対象人数 オンラインの場合：無制限 訪問の場合：30名（諸経費別）

サポート概要

支援サポート

コーチングサービス

その他

ISO56002を取得した実績をもつ  
株式会社システムコンシェルジュが  
実務レベルでの仕組み化をサポートします。



こちらからお問い合わせください

<https://systemcon.co.jp/iso56001-inquiry/>